

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第58号 2024年10月



6月12日に川真田直之様が亡くなられたとの葉書を頂きました。4月11日の月例会に参加されていたので、あまりにも急なことでした。MECC発足時から市民への啓発や三多摩の行政への働きかけを積極的に活動をされて来られました。また、設立20周年記念誌の発行にご尽力をいただきました。

川真田直之さんを偲んで

富川 昌美

今年の夏は戦争、地震、大雨・猛暑と大災害に見舞われましたが川真田さん急逝の訃報は私には特に厳しいものでした。

思い起こせば、都内で最初の「武蔵野環境カウンセラー協議会」に新しいカウンセラーが加入されて、平成11年「武蔵野多摩環境カウンセラー協議会（MECC）」が新発足しました。この設立によって多摩全地域の環境カウンセラーの活動基盤が出来上がり、更に川真田直之さん、藤井健史さんらによってNPO法人の登録を得、環境カウンセラーとしての本格的な活動が開始されました。

当時、市民や企業の間での環境問題への関心は現在と比較できないほど高まっており、温暖化防止、エネルギー、有害廃棄物など多様化する課題に、自治体、市民と専門家としてのカウンセラー、それぞれの役割と協力の明確化が求められていました。MECCは具体的な行動の一つとして武蔵野野で始まった中小企業に対する「グリーンパートナー事業・環境活動評価プログラム」に参加しましたが、その中心は川真田さんであり、現在は勿論、特に初期のMECCにおいてはすべての活動に必ず参加しておられました。

温厚で実直、それでいて行動的な川真田さんは、平成17～24年、7年間の長きにわたるMECC副理事長を始め、率先して進められた地域の環境保全活動に加え、特に報告書・広報などに重要な業績を残しておられます。

その一つは「MECCだより」の継続です。この種の刊物はややもすれば責任の所在が曖昧になり、いつの間にか消えてしまうのが多い中で、多くの困難を克服して今日の姿を保ってこられたのは川真田さんと多くの協力者の功績と言えるでしょう。追悼号の刊行に泉下の川真田さんはさぞ喜んでおられることと思います。

2番目は2つの冊子の刊行です。一つは「設立20年誌」の刊行、今一つは「武蔵野の生物多様性保全」の刊行です。特に後者は広範な題材を上手にまとめられ、私は度々活用させて頂いていますが6項目を川真田さんが執筆されたことでその意気込みを感じています。

その他、色々書きたいこともありますが多弁の人たちが多い中であって会議の片隅できちんと仕事をしておられた川真田さんは文字通り「縁の下の方持ち」であり、その努力には感謝の言葉しかありません。今後は天国からのご指導をお願いするとともに安らかなご冥福をお祈りいたします。 合掌



研修講座の川真田氏。右は故糸井氏
(2007.12.8 中西由美子氏提供)

川真田直之様

藤井 健史

あなたはどのように早々とこの世から姿を消してしまわれたのですか？ 私はその知らせを聞き、びっくり仰天、茫然自失の有様でした。MECCでの最近の活動の様子を見聞きしておりましたのでまさか・なぜ？との想いでした。

あなたは環境問題全般について深い知識と広い見識をお持ちでした。1997年に初めて環境省が環境カウンセラー（以下ECと略記）制度を創設されたときにはその初年度に登録されました。

その後、武蔵野市の富川昌美さんが結集された環境カウンセラーの会が活動対象を多摩地域全般に広げたいとして多摩地域全体のEC登録者に参加を呼びかけられました。この時に川真田さんとともに私はMECCに加入しました。その時以来私は川真田さんと一緒にMECCの活動に参画してきました。長い付き合いであり尊敬する知人でした。

MECCは特定の具体的な活動目的を持った団体ではなく、武蔵野地区の環境に関する問題点を話し合い、個々のECの活動状況を話し合い、意見感想を述べあって個々のECの活動に資することを目的としていましたから、当初は議論が活発でした。特に初代理事長富川さんと活発な活動実績を持つ故糸井守さん（その後理事長）との間のはらはらするような激論がありましたが、そのような中であって川真田さんは冷静に理論的に意見を述べられ、会合をリードされていました。なかなかのことです。

MECCの会合が終わり川真田さんと私、それに同時に加入した阿部英美さんとの三人でJR吉祥寺から国分寺までの車内でMECCでの会合での議論のこと今後の活動のことなどを熱心に話していたことは懐かしい思い出です。MECCは個人のECの集合体ですから共通の活動事項を設定するのに工夫が必要でした。

武蔵野市の環境行政に協力して市の環境活動を受託することに注力して、市の環境政策課に提案をしておられましたね。その結果「市民環境講座」、「市民省エネ講座」、「環境マネジメント講座」等を受託しましたが、その内容テキストの作成に川真田さんは尽力されました。

またMECC独自の事業として森林総合研究所から岡部講師をお招きして「武蔵野の生物多様性のシンポジウム」を開催できたのは川真田さんのご努力でした。

その後平成25年からはMECCの理事長を務められ、MECCの活動を統括・指導されました。このように川真田さんの存在はMECCの活動の大きな部分を占めていました。このような存在でありましたので、川真田さん亡き後のMECCの活動には会員全員の一致協力した努力が必要となります。

川真田さん！ メンバー全員が協力・努力して川真田さんのMECCに対する思いを引き継ぎ活動してゆきます。どうぞ安らかにお眠り下さい。 合掌

川真田さんを偲んで

松島 正

川真田直之氏の訃報の一報に驚きました。

私は環境マネジメントシステム エコアクション21（EA21）地域事務局東京の判定委員会で長年判定委員長をしていましたが、2022年5月に判定委員4名のうちの1名が都合で退任することになり、後任を川真田氏に打診したところ快諾してくれて助かりました。2022年7月から2023年3月まで一年弱でしたが、誠実に判定委員を務められました。終了時期は残念ながら地域事務局での判定業務が他事務局に移管され廃止されたことによります。判定委員会は月一回開催ですが、新型コロナウイルス蔓延期間中でしたからZoomによるリモート開催でした。したがって対面での会話は叶いませんでした。

訃報を受けて、体調不良の中を頑張って下さっていたのか気掛かりで、弔文をご自宅にお送りした際にそのことを記しました。奥様からのご返信では『いろいろとしたいことは出来た人生であったと（本人が）申ししていた』として、体調については何も触れていませんでした。

判定委員会の事前準備では報告書類を丹念に読み込んで、コメントシートを作成、事前配信してくれました。審査員や事業者に寄り添った厳しくも有効なアドバイスでした。

まだまだご活躍を期待されていましたが誠に残念です。生前のご交誼を感謝しますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

川真田直之 元理事長を偲んで

竹本 秀人

大所高所より環境カウンセラーとしての役割や、活動含め長年に亘り、ご教示賜りました川真田直之元理事長が、本年6月12日急逝された報に接し、驚愕と共に、深い悲しみを覚えております。

川真田さんが企業で長年 公害防止設備、エネルギー関連施設の化学プロセスの開発に携わられた深い知見も活かされ、我々に数々ご教示頂いた事例としまして：

1. 環境活動のリーダーを志す人達の為に、「座学から実践活動を一貫して指導する研修講座」、を発案され開催された。

2. 自治体環境プロジェクトを受託、長年に亘り武蔵野多摩地域全域 武蔵野市、地元の小平市、八王子市、昭島市等での環境講座開催、グリーンパートナー事業等へ協力、支援を行っておられた。

3. 生物多様性保全に向けたシンポジウムの開催

4. 企業の環境マネジメントシステム構築の為、エコアクション21の普及と審査活動を長年多くの市とタイアップされ審査員仲間を率先し行われた。

5. 直近での環境講座の開催

川真田さんが福生市より委託され、2021年12月同市での環境講座の講師のリーダーを務められ、一條理事と私も講師参加したのは素晴らしい思い出の一例です。講座では川真田さんが江戸時代より現代にいたるまでの時系列な具体的環境問題の事例説明と共に、具体的対応策を示されましたことは、我々



に取っても充実した学びの場となりました。

数年前 庭にバラ咲き誇る川真田さんの小平市のご自宅を訪れた際にも、多くの知見を

惜しみなく頂きました。ご教示を少しでも伝承いたす所存です。

数々の偉大な足跡を残された川真田さんが天空から我々の活動を暖かく見守っていただいていると思います。改めて、心から哀悼の意を表します。

川真田さんとの思い出など

中西 由美子

川真田さんとご一緒した活動で印象に残っているものを思い出すと、いろいろと思い浮かびます。

2008年頃、私がMECCに入会して間もないころ、環境活動実践講座という活動を実施したことがありました。環境活動のリーダーとなる人材を育成し、地域の環境学習や環境問題に取組む市民活動全体を活発にしていくことを目指したものでした。川真田さんは総括的な役割を担当され、今は亡き糸井さんもいらっしやって、講義などを担当されていました。連続講座として開催し、講義や現地での見学ツアー、各自の活動の企画づくり・実践活動を経て、最後に活動成果発表をしてもらおうというものでした。こうした人材育成のための講座を何年か模索しながら続けましたが、受講者を集めるのに苦労したことが思い出されます。

2014年頃には、武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業により、生物多様性に関する啓発活動として冊子「武蔵野の生物多様性保全～人間と生物との共生を考える」を作成したことがありました。

その冊子には、武蔵野の過去から現在に至るまでの環境、河川の変遷とともに、植物、鳥類、昆虫、水生生物の変化を記し、そのうえで、生物多様性を保全し、生物と共生していくためにどうすればよいかを考えようという内容です。それぞれの分野が得意な会員に原稿を依頼し、執筆をお願いしました。また、この成果を広く共有するために、講演会を開催し、プレゼンを行う場も設けました。川真田さんは、ご自宅でも植物を育てるなど生きものが好きだったのだと思います。私も生物に関する活動は好きだったので楽しく参加させていただきました。

川真田さんは、あらゆるMECCの活動に関わっておられ、総括的な役割だけでなく、裏方的な仕事も進んでされていて、MECCの活動を支えておられました。特に、市民活動に関してつねづね気にかけて、活発化していきたいという思いを持っておられたように思います。穏やかに見守りながら、必要な時に適切に助言や呼びかけを行う、頼りになる環境カウンセラーでした。ご冥福をお祈りいたします。

2023年我が家の環境取組の紹介

泉 浩二

MECC2023年度活動計画「家庭での環境への取組プロジェクト」の取組結果を紹介いたします。

1 太陽エネルギーの利用

1.1 太陽光発電
2023年の太陽光発電量は3,940kwhで、設置後10年間の年平均値3,871kwhを上回り、また月別自給率では、すべての月で100%を越え年間自給率は180%となりました。

項目	値
設置後10年間(2010~19)平均発電量(kwh)	3,871
発電量(kwh)①	3,940
使用量(kwh)②	2,191
売電量(kwh)③	2,985
買電量(kwh)④	1,238
自給率(%)⑤=①/②*100	180
家族数(人)	3.75

なお、太陽光発電時間帯と電力使用時間帯が異なるため買電をしていますが、脱炭素のため、2021年5月より「再エネ100%電力」を購入しています。

2024年からは更に、車の買い換え時にEVとし再エネの自家消費拡大を試みています。

1.2 太陽熱

屋根のガラス付集熱面にて暖めた空気(不凍液)を介して貯湯槽の水を温めてお湯を作ります。40℃(約お風呂の温度)を1時間以上記録した月別日数を図1に示しました。年間日数196日(年間日数の54%)となりましたが、この日数はお湯の使用量の多寡により翌日に持ち越されたお湯もあります。



編集後記

川真田さんご逝去の連絡を受け、会員の皆さんはショックを受けています。川真田さんを偲んで寄稿をしていただきました。

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 理事長 井田 秀明
TEL：042-652-3726
連絡メール：mecc-home@mecc.or.jp
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/

2 生ごみたい肥化処理とCO₂排出量削減の試算
我家では、生ごみを自治体の焼却処理に委ねず庭に堆肥還元する取組を行っています。この取組による「焼却処分量の削減によるCO₂排出量削減」の試算を行いました。(表2)「2維持管理用エネルギー使用により排出される温室効果ガスの削減」は、焼却処理する生ごみに特化した取り扱い、また焼却場までの運搬、焼却後残渣の処分に係るCO₂排出量を含めれば実際の削減量は試算結果を更に上回ると考えます。

表2 生ごみ焼却処分量の削減によるCO₂排出量削減の試算

項目	単位	値	備考(出典その他)
1 廃棄物の焼却処分量の削減による温室効果ガスの削減:			
『環境省令和5年3月地方公共団体実行計画(事務事業編)兼定実施マニュアル(算定手法編)』による算定方法により試算(生ごみ(バイオマス)の焼却に伴うCO ₂ 排出量はカーボンニュートラルとしてカウントされない)			
生ごみ焼却処分量	t	0.1077	我家の2023年生ごみ発生量:107.7kg(78.6g/人日)
②メタンCH ₄	b排出係数	kg-CH ₄ /t	0.00895 (連続燃焼式焼却施設)
	c地球温暖化係数		28
③一酸化二窒素N ₂ O	d排出係数	kg-N ₂ O/t	0.0567 (連続燃焼式焼却施設)
	e地球温暖化係数		265
合計CO ₂ 換算排出量	f=a×b×c+d×e t-CO ₂ eq	0.0016	
2 秋水園関連施設維持管理用エネルギー使用により排出される温室効果ガスの削減:			
秋水園各施設の詳細未把握のため秋水園搬入総ごみ量に比例して増減する仮定での算定			
総ごみ量	t	36.898	『秋水園事業概要(清掃事業概要)令和4年度実績版』
秋水園関連施設維持管理用エネルギーよりのCO ₂ 排出量	t-CO ₂	1.300	『エコオフィス東村山令和4年度実績報告書』施設維持管理用電気、燃料より排出されるCO ₂ 排出量
生ごみ搬入量削減によるCO ₂ 排出削減量	j=(a/g)×h	0.0039	
総合計CO ₂ 換算排出削減量	k=f+j	0.0054	

3 あとがき ~脱炭素社会に向けて

近年、特に今年は「地球温暖化」からさらに「地球沸騰化」といわれる極端現象を思わせる、酷暑、豪雨・洪水・土砂災害等が頻発しています。

こうした中、日常生活の中で「加害者」であり「被害者」でもある一市民としてなうることを、一人一人の小さな取り組みでも実践してゆくことで将来世代へ持続可能社会を残せるようにしたいと思っています。

川真田直之様には、前号日より(2023年11月発行)に近況報告いただいたばかりなのに、この度残念なことに訃報に接することとなりました。穏やかななか芯の強さをお持ちの人柄で、博識を活かし事業者・市民向けに広く活躍されました。ご冥福をお祈り申し上げると共に、生前強調されていた近隣自治体との連携に向けて足元から取組みたいと思います。